



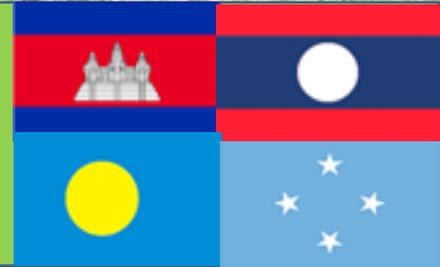
オヤジたちの国際貢献 (16)

2020-2021



JMAS

Japan Mine Action Service



▶目次

កម្មវិធីស្វែងរក៖
ger!! UXO



- ▶ 発刊に寄せて
- ▶ 概観と展望
- ▶ カンボジア
- ▶ ラオス
- ▶ パラオ
- ▶ ミクロネシア
- ▶ 本部
- ▶ 会勢概要
- ▶ 支援のお願い

JMASの 2020年4月～2021年3月の活動国



▶発刊に寄せて

JMASは、この1年、カンボジアはじめ4ヶ国で活動を行い、目に見える形で着実に成果を収めてまいりました。外務省、特別協力企業、法人・個人会員及び寄付者の皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。



会長 岡部俊哉

昨年1月頃から始まった新型コロナウイルスの世界的規模の感染は、当会の活動にも大きな影響を及ぼしました。JMASが活動している国々は医療体制が整っていないこともあり、感染防止策として国際航空便の運航停止、厳しい入国規制、国内の移動制限処置等がなされ、それは現在も継続しております。ラオスでは1ヶ月に及ぶロックダウンもありました。こうした中にあっても現地に留まり意欲的に活動を続け、着実に成果を積み上げているJMASの要員に心から敬意を表します。

JMASは創設以来、地雷・不発弾処理に関する我が国のパイオニアとして、地雷・不発弾問題の世界的な解決の目標年である2025年に向けて地雷・不発弾除去に取り組むとともに、地域復興、環境保全等の支援を進めて参りました。来年は設立20周年を迎えますが、JMASの活動を取り巻く環境は大きく変化してきております。このため、次の時代の更なるそして新たな要請にも応えられるよう、これからのJMASは如何にあるべきか、そのために何を為すべきか等、JMASの将来態勢についての検討に着手しました。引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



▶ 展望兼ねて御挨拶



理事長 鈴木純治

国際社会の平和と発展には地道な共存努力が必要ですが、近年国連においてSDGs(持続可能な開発目標)が採択され17の大きな目標と169のターゲットが示されました。その中のいくつかは、私達JMASの理念に合致したものがあり、現在の活動や取り組みは正にこれらを体現しているとも言えるでしょう。

JMASの活動は、日本においては極めて特異な分野ではありますが、自衛官OBを中心として持てる知見と技術を活かしつつ情熱を持って多くの国際貢献活動を継続しています。2020年度、日本はもとより世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け大きな制約が続く中においても、現場で活動する要員の粘り強い努力と責任感、本部との密接な連携等で、何とか活動を継続して参りました。今後は、徐々に活動しやすい環境に戻ることを期待しています。

これからも様々な課題に直面すると思われませんが、果敢に挑戦し続けて参る所存です。個人・法人の会員、寄付者各位、特別協力企業及び外務省の皆様には引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。そして本誌を一読されました方々には、会員や要員等としてのご参加、ご寄付等のご協力を宜しくお願い申し上げます。



▶2020-2021概観

1 世界の地雷・不発弾問題の現状

参考文献: Landmine Monitor Report 2020

オタワ条約加盟国	164の加盟国、33の未加盟国（2020年12月時点）
世界の目標	2025年までに処理目標国 28、以後の目標国 4
地雷汚染国	60の国と地域（33の加盟国、22の非加盟国、5つの地域）
地雷/*ERWの被害	死傷 5,554人 死者 2,170人 負傷者 3,357人 民間人 80% 子供 43% （2019年）
死傷者100人以上	アフガニスタン、イエメン、イラク、ウクライナ、コロンビア、ナイジェリア、マリ
重度汚染国 （100km ² 以上）	アフガニスタン、イエメン、イラク、ウクライナ、エチオピア、カンボジア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、タイ、トルコ
2019年世界での地雷処理結果	処理面積 156km ² 約123,000個以上の処理 （参考:2018年146km ² 、約98,000個） アフガニスタン、イラク、カンボジア、クロアチアで86%
対人地雷使用者	国家:ミャンマー（未加盟） 2019年半ばから2020年10月
	武装集団:アフガニスタン、インド、コロンビア、パキスタン、リビア、ミャンマー
地雷処理完了	30の加盟国、1の非加盟国、1の地域
処理資金額	約6億5,070万米ドル（2019年） ▲4,880万米ドル（対2018年）
2025年5条義務完了予定	2025年までに期限を迎える国:25カ国 2025年以降期限を迎える国:イラク(2028年)、 クロアチア(2026年)、スリランカ(2028年)、パレスチナ(2028年) 2025年以降へ期限延長要求国:セネガル(2026年)、 ボスニア・ヘルツェゴビナ(2027年)、南スーダン(2026年)
対人地雷生産国	イラン、インド、韓国、北朝鮮、キューバ、シンガポール、中国、パキスタン、米国、ベトナム、ミャンマー、ロシア

* ERW (Explosive Remnants of War) : 爆発性戦争残存物

2 JMAS 2019－2020活動概観

(1) 全般

JMASは、地雷問題を重点課題とする外務省や、個人及び法人会員並びに寄付者の皆様、地雷除去機(DM)や世界初のクラスター子弾処理(CM)機等の無償貸与、学校、道路の建設等様々な地域復興支援に取り組むコマツを始めとする特別協力企業・団体から物心両面のご支援を頂き、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう世界において、4ヶ国で、地雷や不発弾、海中のERW等の処理、戦没船からの漏油回収及び各種の地域復興支援等を行なって参りました。



コロナ下の健康診断



油除去



処理に向け潜水



農地転換施策

(2) 成果の概要

各活動国において、新型コロナウイルス感染症予防に関する処置を徹底しつつ、様々な障害を克服して事業を推進しました。

カンボジアでは地雷・不発弾処理技術の移譲、処理及び農業を含めた地域復興支援を実施、ラオスではクラスター子弾の処理、パラオでは戦没船の不発弾等の探査及び処理を実施、ミクロネシアでは戦没船内の油の調査及び回収を実施しました。



成果の概要

地雷・不発弾処理数	1, 307 発
クラスター子弾処理数	1, 322 発
同上安全化面積	437 ha (4. 37km ²)
処理技術教育	104 名
危険回避教育	181回 8, 319名
道路整備	13 Km
側溝整備	26 Km
暗渠構築	3 箇所
戦没船状況調査	8 隻
爆雷処理	58 発
滞留油回収	1, 430 l
潜水等技術移転	12 名

▶カンボジア王国

1 現地の声

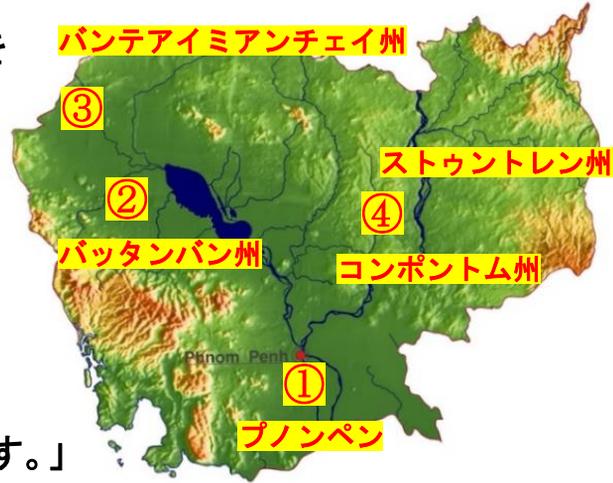


末永 典良
代表①

「コロナ事態の中でしたが活動を完遂し、2021年3月から新たな3ヶ年事業を開始することができました。」

新しい3ヶ年事業では、地雷・不発弾除去跡地の活用として農業支援の分野に活動の幅を広げます。

『地雷原を緑の大地へ！！』
夢のある新しい事業が始まります。」



中野 雅仁
専門家③

「この歳で、社会貢献の仕事ができることを嬉しく思います。カンボジアの人々の笑顔を励みに頑張ります。」



金田 浩之
専門家③

「地道な努力が必要な地雷処理ですが、カンボジア人と同じ目標を追ってまいります。」



下菌 修良
専門家②③

「衛星(写真)から確認できるような仕事をしていきたいです。」



菅原 章二
専門家④

「2021年でカンボジア勤務7年目に突入しました。コロナ禍の中、『健康第一』を念頭にして任務を全うできるように頑張ります。」



今 雅人
専門家④

「カンボジアに来て早7年が経ちました。隊員は皆真面目に任務に取り組んでいます。安全になった土地が畑に変わっていくのを目にし、活動の重要性を認識しています。」



横山 圭介
総務①

「サッカーに例えるなら、専門家の業務は得点することで、私のそれはアシスト。正確なパスを供給したいと思っています。」

2 事業活動

(1) バンテアイミアンチェイ州における地雷処理事業

タイ国境沿いに広がるK5と呼ばれる高密度の地雷原で地雷処理を行っています。錯雑地形、繁茂した植生、高密度の地雷埋設の危険性から、地雷処理がほとんど進んでいなかった地域でJMASが2017年10月から地雷処理を開始しました。今年3月からは処理跡地の農業支援も実施し、地域の発展にこれまで以上に関与していきます。



カンボジア地雷処理センター（CMAC）のディマイナーとの協力



専門家による指導



子供たちへの危険回避教育

バンテアイミアンチェイ州における地雷・不発弾処理事業成果 (2019年10月～2020年10月)

処理面積	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	住民からの 回収要請	危険回避教育 受講者
188ha	161個 (60個)	2個 (1個)	365発 (220発)	37回	1,133名 (44回)

処理前の地雷原



地雷除去機（DM）
による地雷処理



地雷処理後農地等で活用



バンテアイミアンチェイ州における地雷処理事業は、新型コロナウイルスの感染爆発が危惧されましたが、なんとしても地雷処理活動を継続したいというカンボジア地雷処理センター（CMAC）に全面的に協力し、事業を続行しました。不安を覚えたCMAC隊員もいたはずですが、専門家の存在が隊員たちに安心を与えたことと思います。今後も気をゆるめず、健康に留意して地雷処理を進めてまいります。

(2)コンポントム州におけるクラスター弾と地雷の混合汚染処理事業

ベトナム戦争中に落とされたクラスター弾とその後の内戦で埋設された地雷や残された不発弾を、クラスター子弾処理機(CM)という新たな機械を用いて効果的に処理する活動を2018年3月から進めてきました。今年2021年3月からは、ストウントレン州にてクラスター弾処理に特化した事業を進め、処理跡地に試験農場を立ち上げ、農業指導とあいまって、地域の貧困撲滅に貢献してまいります。



専門家によるCMの構造教育



稼働中のCM



専門家との調整

コンポントム州におけるクラスター弾と地雷の混合汚染処理事業成果 (2020年3月～2021年2月)

処理面積	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	クラスター弾 (うち回収要請)	危険回避教育 受講者
174ha	62個 (49個)	0個	456発 (304発)	164発 (101発)	2,186名 (137回)



地雷原に繁茂する樹木



左の地雷原はカシューナッツ畑に

住民たちへの危険回避教育



危険回避教育のために各地を巡回。マスクにお金を出せる家庭はほとんどないという地雷原近傍で暮らす人々の厳しい状況をあらためて認識することとなりました。

手洗いなどのできる範囲での防疫を伝えると共に、一日も早い地雷や不発弾の処理によって貧困撲滅に貢献していかなければと決意を新たにしています。

(3) 安全な村づくり事業

バタンバン州とバンテアイミアンチェイ州では、地雷処理を行った後、道路建設や学校建設などのインフラ整備によって地域の復興を後押ししています。地雷の危険が取り除かれたとはいえ、今日まで発展から取り残されていた地域の状況は厳しいものです。そのような地域で住民が明るい未来を描けるよう活動しています。この事業はコマツの支援によって13年間続けております。



住民との話し合いをする専門家



カンボジア政府機関との業務協定調印式



学校建設工事の安全祈願



子供達の未来のために

安全な村づくり事業成果
(2020年4月～2021年3月)

バタンバン州及び バンテアイミアンチエイ州	道路整備	側溝整備	暗渠設置	学校敷地 整備
	13 km	26 km	3 箇所	1 ha



洪水により寸断された道路



ラテライト土を敷き転圧



道路整備中に子供たちと雑談



洪水をおこしやすい場所に暗渠設置

コロナ事態下のために、一時帰国していた日本人専門家がカンボジアに復帰できない間、クメール人スタッフ達が毎日専門家に代わって事業現場に足を運び、日本にいる専門家の指示を作業員へ徹底させ、遅延を生じさせることなく計画どおりに活動を継続しました。また日報・週報などの定期報告資料の作成等、専門家の不在を補ってくれた彼らを専門家として誇りに思います。

(4) 農地の均平化による農地整備支援事業

バタンバン州の2郡にて、農地の高低差をなくすことで米や野菜の収穫量増加に寄与する事業をコマツの支援の下、開始しました。

住民からの関心や期待は高く、それに応えるべく日々重機を操作し、地域と連携を密に作業をしています。



土地の均平化



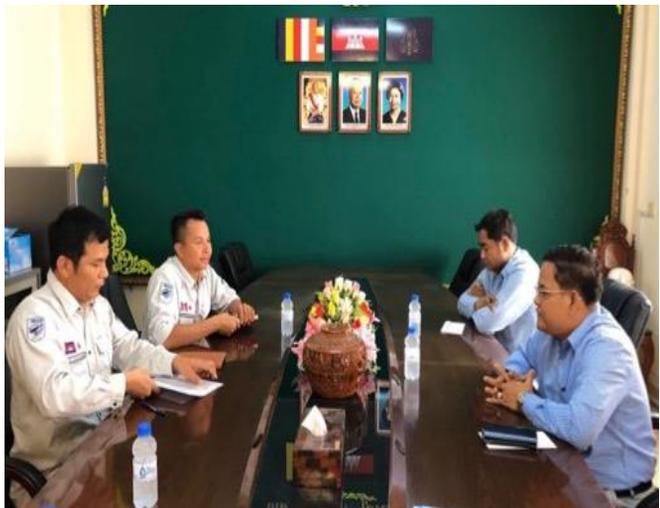
レーザー測定技術を用いた均平作業



均平化によって米の収穫高が増加

農地整備支援事業成果 (2020年4月～2021年3月)

	水田均平作業面積	畑地均平作業面積
バタンバン州	11.3 ha	1.9 ha



州副知事に成果を説明



機材点検をするスタッフ



作業を心待ちにする女性

コマツ主導の事業開始初年度として、バタンバン州事業実行委員会を中心に各関係機関・関係省庁・団体・農家等に対する事業説明や、調整を密に運営に取り組んできました。年2期作を行う農家が多いことから、収穫後から次の植え付けまでの間に実施しました。

農地の選定は、村長の責任において希望者の農地調査を行い、村長の指定した農地を実施しました。仕上がりは良好で高い評価を得ることができました。

▶ラオス人民民主共和国

1 現地の声



西城 真人代表

「私たちJMASラオスは、皆様方のご支援の下、コマツが開発したクラスター子弾処理機を使用して、クラスター子弾(ボール爆弾)等で汚染された土地の安全化作業を実施しています。これからもラオスの人たちが安心して暮らせるよう頑張っていきます。」



亀井英紀 機械運用専門家

「時代が変わっても人が安全・安心を求める気持ちに変わりはありません。一人一人のちょっとした行動の積み重ねが、最後にはきっと大きな成果をもたらしてくれます。次の一年も、現場の仲間たちと一歩一歩進んでいきます。」



福栄重 事業主任兼会計主任

「ラオスでの勤務も3年が過ぎました。2020年2月に首都ビエンチャンに連絡事務所を開設し、主に各省庁や関係機関との調整を行っています。責任の重さを自覚しながら橋渡し役としての職務を全うして行きます。」



2 事業活動

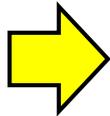
(1) シェンクワン県におけるクラスター子弾機械処理加速化事業

この事業は、不発弾による地域の経済的障害を除くため、これまでの処理機の使用で得た機械処理のSOP(手順書)により、汚染度が激しい地域のクラスター子弾の処理を加速し、併せて共同するUXO Laoの機械操作員・整備員が将来独自で機械処理を行うための必要な知識と技能を教育することを目的として2019年12月から3か年事業として始めました。2020年12月に第1年次事業を終了し、2021年3月から第2年次事業に着手しています。

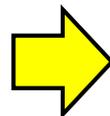
3 機械処理作業の流れ



伐採



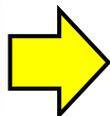
ラージループによる探査



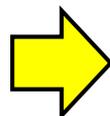
探知機による探査



不発弾の発掘



弾種の特定



クラスター子弾処理機
による破碎



処理終了後に小屋を建てる村民



破碎状況の確認

4 事業活動



UXO Lao本部との調整



事業開始時の現地スタッフの集合



活動地域への処理機輸送



技術移転教育

5 事業成果

2020-2021年の活動は、コロナ禍で約1ヶ月間現場の処理活動が中止になる等、事業目標の達成に大きな影響を及ぼしました。対象期間内の主な成果は次の通りです。

項目	機械処理数	爆破処理数	処理地	処理面積
成果	1,158 発	261 発	3 郡・9 村	75.3 ha

▶パラオ共和国

1 現地の声



代表
島田 正登



総務会計
村上 久子



ERW専門家(主任)
田村 博義



ERW専門家
篠山 浩司



ERW専門家
瀧田 淳一

島田：「今まで積み上げてきた実績を無駄にせぬよう、そしてJMASの名を汚さぬようにスタッフ一丸となって頑張ります。」

村上：「パラオ勤務2年目を迎え、総務会計業務担当として活動の後方支援、頑張っています。」

田村：「今期の活動も引き続き頑張っています。なお、一時帰国は当分叶いませんが、コロナフリー天国のパラオでの生活も満喫しています。」

篠山：「レンジャーへの技術移転教育も2年経過。現在、専門知識の更なる向上を目指し潜水作業要領等の教育を実施しています。」

瀧田：「パラオの安全と自然保護並びにパラオの人との友好を深めるため、日々頑張っています。」



ERW専門家
橋 利至

橋：「自衛隊退職と同時にパラオに来て、海中の爆雷等処理作業を実施、世界遺産の海を守るため頑張っています。」

星野：「日本に帰国せずに1年以上経過しましたが、パラオの良さが身に染みてきました。もうひと頑張りで。」



パラメディック
星野 光男



ヘルメットレック(沈船)



2 ERW処理事業

世界有数のダイビングスポットを有する観光立国パラオは、多くの外国人観光客が訪れ、日本人にも人気の国です。しかし、第二次大戦の激戦地であったことから、現在でも多くのERWが処理されないまま陸上や海中に残されており、環境汚染及び観光開発等の妨げとなっています。JMASは、主として海中と水際で探査を行い、発見した不発弾等の処理(安全化・焼却・爆破等)を行っています。

2018年3月から新たな3年計画で、コロール州マラカル湾内にある沈没船「ヘルメットレック」に残置されている爆雷(163発確認)の処分及びパラオ政府から依頼された不発弾処分を実施しています。

2年次では 58発(処分累計132発)をNPA(ノルウェーのNGO)と共同して処分しました。

なお、処理を進めていく中で、船倉内の堆積物の下から新たな爆雷も多数確認しています。

爆雷処理は、船倉(水深35m前後)から、作業場(水深10m)へ移動して梱包作業を実施した後、バルーンを使用して洋上へ揚収し、船へ積み込み移送します。



第3船倉にある爆雷



船倉から作業場への爆雷移動



作業場での爆雷梱包作業



爆雷揚収準備



爆雷の洋上への揚収



筏に設置したクレーンを利用しての積込

爆雷の海上移送時には、コロール州レンジャーが航路の安全確保のため警備します。



積載完了した爆雷



海上移送（前方がJMAS）

海上輸送はJMAS、陸上輸送はNPAが担任し、爆破場へ搬入した爆雷は、共同して、焼却処分します。



焼却処分準備



焼却処分



処分後の爆雷

3 技術移転教育

コロール州レンジャー6名を対象に、水中での不発弾等探査及び処分要領について、3年計画で段階的に技術移転教育を行っています。

今期事業では、海中での不発弾等探査要領の他、船倉からの爆雷移動、梱包、洋上への揚収要領等一連の作業手順を実習訓練しました。



爆雷梱包作業訓練



重量物移送要領訓練



▶ミクロネシア連邦

1 現地の声



井上 潔 代表



牧 正彦 主任専門家



金子 則雄 副主任専門家

井上：「日々日本への恋しさが募りますが、「Hi, JMAS! Thank you.」の声を聞くと、まだまだ頑張ろうという気持ちが湧いてきます。」

牧：「コロナ禍で国際貢献の変化を感じながら、新しい水中文化遺産の資料を作成して元気に活動しています。」

金子：「入国制限が続くチューク。ワクチン接種も完了し、感染者ゼロの島で潜水作業と技術移転教育の日々を過ごしています。」



四季島をバックに作業準備



JMAS専門家と現地の子供たち

2 チューク州における戦没船油漏れ対策事業

ミクロネシア連邦チューク州(旧トラック環礁)には、旧日本海軍艦艇や民間徴用船など約50隻の戦没船があり、戦後70数余年を経過して艦船構造材の腐食や海流等による浸食を受けて崩壊が進み、漏れ出す油が周辺の美しい島々や海域を汚染しつつあります。その対策として、2017年から環境汚染対策、水中文化遺産の保護及び観光産業の振興に寄与する活動を行っています。



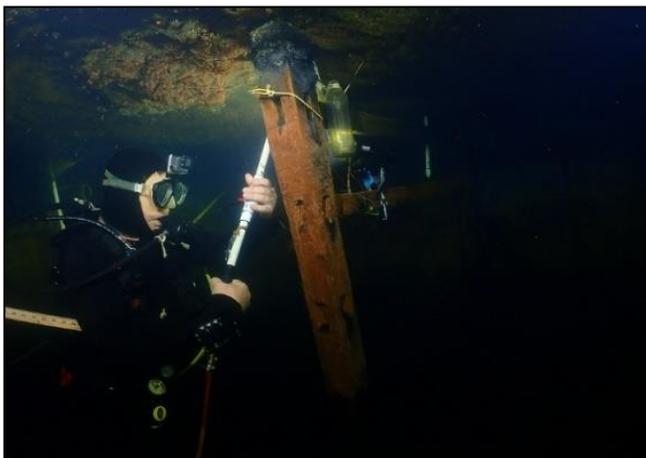
海面に漂う漏れ出た油



漏油回収機材を準備する専門家

2020年5月に第1期3年次事業を終え、3年間で漏油 9,084ℓ を回収するとともに新たに州職員2名に潜水訓練を行ってダイバーライセンスを取得させ、ライセンス既得者と合わせて6名の州職員に漏油回収作業等の技術移転訓練を行いました。

8月からは第2期1年次事業(2020年8月～2021年8月)を開始し、漏油回収、戦没船モニタリング調査、技術移転訓練に加え、戦没船の状況をより詳細に把握して水中文化遺産保護及び海洋観光産業の振興に役立てるよう、戦没船の3D画像の作成を行っています。



油溜まりに吸引ノズルをセット



ボート上のポンプで油を回収

3D画像用水中写真の撮影



戦没船のモニタリング調査



JMAS現地事務所

チューク州四季島周辺



ボート上での漏油回収作業



潜水訓練を行う州政府職員



訓練終了後、ダイビングライセンスを授与

▶本部

1 全般

本部では、6月17日に第18回通常総会を開催、2020年度事業計画等が承認されました。新型コロナウイルス感染防止のため、会員の皆様に極力書面による表決にご協力をお願いして実施しました。

7月30日に東京都による認定期間更新のための現地調査を受検しました。この結果、高い公益性をもっていると判定され、引き続き5年間寄附控除等の高い税制優遇が適用されることになりました。

理事会では、本部業務運営組織の見直しをはじめ、年間を通じ様々な案件が活発な審議を経て処理されました。また、コロナウィルス感染拡大対策の一環として、Web会議システムを併用して理事会を実施しました。



2020年度通常総会

2 遺骨収集推進関連

これまで日本遺骨収集推進協会に理事を派遣していましたが、理事の任期満了に伴い 今後は構成社員として参画することになりました。

3 広報

今年度の現地・本部での研修は、コロナ禍により合計5件44名でした。本部での研修は高知商業高校生36名、ニューヨーク州立大学学生1名に対しWeb会議方式で行いました。現地での研修は、カンボジア1件3名、ラオス2件3名でした。

部外における広報活動については5月のラオスフェスタ、10月のグローバルフェスタが中止となりましたが、9月に防衛施設学会年次フォーラムで会の活動を展示・説明し、JMASへの協力と支援をお願いしました。

また、会の活動について広く一般に理解促進を図るため、ホームページのメニュー構成を変更するとともに最新の情報をトップ画面に表示するように改修しました。



高知商業高校生のWeb研修



防衛施設学会フォーラムでの展示

▶会勢概況(令和3年3月31日現在)

会 員	個人正会員 227 名	法人正会員 43 社	賛助会員 18 名
寄附件数	120 件		

特別協力企業・団体

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	株式会社 IHIエアロスペース	31	仙台駐屯地修親会
2	IOS 株式会社	32	ダイキン工業 株式会社
3	青森駐屯地修親会	33	公益財団法人 隊友会
4	明野駐屯地修親会	34	大和探査技術 株式会社
5	アサガミ 株式会社	35	多賀城駐屯地修親会
6	旭精機工業 株式会社	36	株式会社 ダスキン龍ヶ崎
7	有限会社 アップワールド	37	中国化薬 株式会社
8	ANAホールディングス 株式会社	38	土浦駐屯地修親会
9	伊丹駐屯地修親会	39	デジタルリサーチ 株式会社
10	岩手駐屯地修親会・曹友会	40	豊田通商 株式会社 自動車本部
11	(株)インフォメーション・ディベロプメント	41	日油技研工業 株式会社
12	小原台クラブ	42	ニッセイ保険エージェンシー 株式会社
13	海田市駐屯地修親会・曹友会	43	日本電気 株式会社
14	春日井駐屯地修親会	44	深田サルベージ建設 株式会社 東京支社
15	幹部候補生学校修親会	45	藤倉航装 株式會社
16	北千歳駐屯地修親会	46	富士修親会
17	株式会社 クレスコ one%club	47	富士通株式会社
18	小牧基地OBOGテントの集い	48	船岡駐屯地修親会
19	コマツ	49	公益財団法人 防衛基盤整備協会
20	株式会社 コンサルトファーム	50	一般財団法人 防衛弘済会
21	株式会社 相模工業	51	北海道日油株式会社
22	相模原中ロータリークラブ	52	幌別駐屯地修親会・曹友会
23	三木会	53	マイクロン・コー 株式会社
24	島松駐屯地修親会	54	松戸駐屯地修親会
25	下志津駐屯地修親会	55	NPO法人 松戸あんしんサポートネット
26	尚友会	56	株式会社 武蔵富装
27	神町駐屯地修親会	57	山本造船 株式会社
28	新陽 株式会社	58	リコーエレメックス 株式会社
29	住友商事 株式会社 建設機械事業本部	59	留萌駐屯地修親会
30	仙台駐屯地業務隊OB会	60	レディス枚方21
		61	むとう屋

◆ 継続的に協力・支援を頂いている企業・団体を紹介しています

寄附型自動販売機協力企業

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	アサガミ 株式会社	5	昭和金属工業 株式会社
2	旭精機工業 株式会社	6	日油技研工業 株式会社
3	株式会社 通信設備エンジニアリング	7	富士通 株式会社
4	コマツ		

ご支援のお願い

JMASの活動は、皆様からのご支援に支えられております。
ご支援、ご協力宜しくお願い致します。

正会員

個人：10,000円/年
法人：1口(50,000円)以上/年

賛助会員

1口(1,000円)以上/年
「寄附金控除」の対象です

ご寄付

JMASへのご寄付は税法上の
「寄付金控除」の対象です

お振込み方法

<郵便口座へのお振込み>

口座名：特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
口座番号：00170-1-13709

<銀行口座へのお振込み>

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：市ヶ谷支店（店番014）
口座名：特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
口座番号：普通口座 1320125

他にもこんな支援の方法があります

☺ 書き損じハガキをお送りください

書き損じはがき郵送用として、返信用封筒をお送り致します。

☺ オンラインサイトからの寄附



「ギブワン/Give One」

サイトアドレス：<https://giveone.net/index.html>

団体名検索：JMAS

☺ 寄付型自動販売機の設置ご協力のお願い



JMAS寄付型自動販売機の売り上げの一部は、当会への寄付になります。

①設置、置き換え無料 ②手間や費用は不要 ③全国どこでも設置可能

寄付型自動販売機設置に関するお問合せは、
特定非営利活動法人 寄付型自動販売機普及協会
フリーダイヤル： 0120-937-650
サイトアドレス：<http://kjf.or.jp/>

笑顔がすき
人間がすき
平和がすき

ラオス 民族衣装を着たモン族の女性

認定特定非営利活動法人

JMAS 日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service

〒102-0074

東京都千代田区九段南3-8-10 川内ビル10階

TEL : 03-6261-7851

FAX : 03-6261-7852

Email : jmas-hq@jmas-ngo.jp

URL : <https://www.jmas-ngo.jp>



アクセス

市ヶ谷駅から徒歩5分

(総武線各駅停車、有楽町線、南北線、都営新宿線)